

# データ利活用ワーキンググループの 取組報告



# データ利活用ワーキンググループにおける検討

## 令和3年度 の 成果

- 道庁及び道内市町村のオープンデータの課題の抽出
- 民間のデータ利活用の推進への課題の抽出

## 課題

- 自治体のデータは機械判読できるデータが少なく、どのようなデータがあるかもわからない
- 自治体職員が一番のユーザーにしないといけないとデータ利活用は進まない  
現状は職員の手間が多い
- 民間がデータを公開するためには、メリットが必要

## 今後の 取組

- 道庁の保有データの棚卸し調査の実施、結果を公開
- 自治体職員へデータ利活用を周知する方策の検討
- 民間企業にメリットとなるデータ利活用の方策の検討

# データ利活用ワーキンググループの 開催結果



# データ利活用ワーキンググループ

## メンバー

氏名	所属・職
川村 秀憲	北海道大学大学院 情報科学研究所 教授（リーダー）
横山 想一郎	北海道大学大学院情報科学研究所 助教
湯村 翼	北海道情報大学情報メディア学部 准教授
井口 奏大	株式会社MIERUNE
内山 佳樹	新篠津村総務課行政係 係長
木村 栄一	富良野市総務部スマートシティ戦略室スマートシティ戦略課 主幹
林 禎康 森 雄大	北海道オープンデータ推進協議会

## 会議 開催日時

第1回 令和3年7月7日（水）10:00～12:00 Web会議

第2回 令和3年9月8日（水）13:30～15:30 Web会議

第3回 令和3年11月2日（水）10:00～12:00 Web会議

# 第1回データ利活用ワーキンググループの結果概要

## <会議の内容のポイント>

### 意見交換 北海道のデータ利活用を進めるために

#### <データについて>

- 国や地方自治体のオープンデータはいろいろな場所で公開されているため、使いやすいデータが見つからない
- ポータルのような誰でもアクセスできるようにデータが探しやすくなっているのが理想。APIがベスト。

#### <地方自治体のオープンデータ>

- 行政のオープンデータを使う 一番のユーザーは行政の方々で、そこで 一番メリットを得るようなオープンデータにならないと進まない。
- 簡単な操作でデータがホームページに自動的に反映するようなテンプレートみたいなもの事例としてあるとよい。
- 自治体職員にはデータが使われることへの拒否感がある。 間違いがあったときに責任や意図しない使われ方に対する拒否感。
- 公開側と利用側のコミュニケーション不足。公開側は親切心で見やすいPDFでの公開をしているかもしれないが、利用者側はそうでは無い。
- 道庁が持っている データの棚卸し整理を行うことが大事。

#### <民間のデータ活用>

- 民間がオープンデータを活用するためには、官民がコミュニケーションをとるための仕組みがあることが重要。
- 民間もオープンデータの仕組みに乗って自分たちのデータを公開することで、これまで無かった 新しいサービスが生まれてくる場にしなければならない。

意見を踏まえ、第2回で更なる施策のブラッシュアップを実施！

# 第2回データ利活用ワーキンググループの結果概要

## <会議の内容のポイント>

### 意見交換 データ活用を進めるための具体的な事業・施策展開

#### <民間データの利活用>

- 民間の営利企業がデータを公開するためには、知名度向上や宣伝効果など、インセンティブが無いと難しい。
- 時刻表などの公共性の高いデータを公開することで新しいサービスが生まれ利用が増える可能性があり。
- データを活用し、課題を解決していく仕組み作りを民間が取り組むべきこと。
- データが使われることでメリットを得られるのであれば、使う人をサポートするエコシステムが生まれるとうまくまわる。

#### <行政データの利活用>

- 道が持っているデータの棚卸しを行い、どういうデータが公開できるのかしっかり理解することが重要。
- 現在は、一つ一つ職員が書き換えないとデータをアップデートできないが、データが一元管理できていれば、データベースを書き換えるだけで自動的にアップデートできる仕組みができる。
- 30年後、50年後の子ども世代に今と同じ手作業でのアップデートを行わせるかという点あり得ない。
- 棚卸ししたデータの中から、民間ニーズの高いものを選ぶことができれば良い。
- スキルや知識が無いと価値のあるデータに気づかない。そのためにはデータアカデミーは有効。
- データを簡単に入力できて、CSV等の正しい形で出力されるようなものがあれば、市町村でも使いやすい。
- データを作成、公開するためには、職員の手間が減るようにならないと絶対に進んでいかない。
- 「機械判読可能なデータを増やす」ということが目的にならないように、仕組みを作らなければならない。
- 数値データだけでなく、コンテンツ自体もオープンデータにしていくという流れもある。工夫が必要。

# 第3回データ利活用ワーキンググループの結果概要

## <会議の内容のポイント>

### 意見交換 令和4年度に向けたワーキンググループの取組

#### <令和4年度に向けたワーキンググループ取組>

- DXとはITの仕組みの上に社会の仕組みをのせること。行政情報のデータ化、**オープンデータはDXの1丁目1番地**。
- データに対するニーズが無くても、自治体は機械判読可能なデータを公開するべきであるが、そうは言っても進まないのも、ニーズの高いものから行うというのは良い。
- **データを公開することと、利用することは「鶏と卵」の関係**。黙っていると何も始まらないが、**道庁のデータ棚卸しは最初の一歩の役割**を担っている。
- 自治体職員向けにセミナーを実施し、データ利活用に理解してもらい、ハッカソンにつなげて成果物ができるという仕組み作りを検討していく。
- 行政データを組織として把握出来ていないというのが問題。道庁が棚卸し調査を行うのであれば、**市町村に手法を展開し応用できれば良い**。
- 学校、学生もデータを求めているということが自治体にわかると、子どもの教育に使うなら意識変化になる。
- 大学や高校とデータ利活用で何かできないか。

#### <親会議への報告について>

- **行政のデータ活用と民間のデータ活用では共通する部分**がいくつかありそう。その部分を**重点的に行う必要あり**。
- 市町村のオープンデータは、**道が首長に「法律に基づいている」ということをきちんと伝える**ことをしてほしい。
- 民間にも出してほしいデータがあり、アウトプットイメージをしっかりと組み立てて、**データを使ってほしいというサイクル**ができれば理想。
- 親会議に**データ利活用の取組は何に対して必要なのか**ということ伝えることが大事。
- **デジタル基盤の上に社会をのせること**をやらなければならないが、それには**データ利活用が欠かせないこと**を強くインプット。

# データ利活用ワーキンググループの 検討結果と取組の方向性



# 北海道Society5.0におけるデータの利活用の必要性

なぜ今データの利活用が必要なのか？

少子高齢化で働き手が少なくなっていく中で、

人やデータなど社会のリソース  
を有効利用しないと



ができなくなる  
という危機感が必要



社会全体の効率性の向上  
リソースが生み出す価値の向上

北海道Society5.0の実現に向けて、道民みんなで共有

# 行政のオープンデータについて

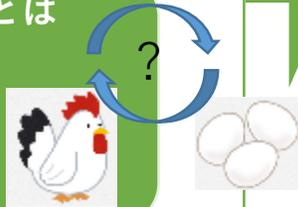
## ワーキンググループでの意見

DXとはITの仕組みの上に  
社会の仕組みをのせること

行政データのオープンデータは  
DXの一丁目一番地

機械判読可能データは  
ニーズの高いものから整備していくべき

データを公開することと利用することは  
「鶏と卵」のようなもの  
黙っていれば始まらないが、  
道庁のデータ棚卸しは最初の  
ひと転がりになる



## 令和4年度 道の取組の方向性

道庁の保有するデータを把握するため  
庁内データ棚卸し調査を実施

WGと協力

民間ニーズ把握のため  
オープンデータ官民ラウンドテーブルを開催

データの利用事例を創出するため  
アイデアソン、ハッカソンの開催

WGと協力

DXもオープンデータも  
仕事が増えるのでやりたくない

首長にオープンデータは  
「法律に基づいている」ことを  
きちんと伝える

自治体職員のデータ利活用の理解を深めるため  
自治体職員向けのセミナーを実施

WGと協力

オープンデータ未取組自治体の市町村の首長、幹部へ  
道から説明を検討

# 民間データの利用について

## ワーキンググループでの意見

民間と行政が同じ目線でオープンデータを作って公開していくという方法論が重要

民間もデータを出すことにはアレルギーデータを使ってほしいというサイクルが出来れば理想。

民間のデータは財産。メリットが無いと公開することは出来ないのでは無いか

行政のデータを活用したくてもどこにデータがあるかわかりづらい

## 令和4年度 道の取組の方向性

北海道のデータ活用を進めている民間企業へヒアリングを行い、必要に応じて意見をもらう。

民間企業にデータ利活用することでメリットのある仕組み（データサイクル）の構築を検討

## 令和4年度のWGで継続検討

データ利活用WGでの検討内容

- 民間企業へデータ利活用についてのヒアリング
- 民間にメリットのあるデータ公開の方策の検討

など

# 令和3年度の道庁のオープンデータに関する取組



# 令和3年度北海道オープンデータアイデアソン、ハッカソン

日時

令和3年10月9～10日

場所

オンライン開催

9月25日に事前勉強会開催→Youtube配信

ハッカソン参加人数 18名（4チーム）

ハッカソン成果発表 10月16日

<成果>

- ・災害時の見守りアプリ（最優秀賞）
- ・野生動物表示マップ（優秀賞）
- ・雪かきマッチングアプリ（審査員特別賞）
- ・バス、観光地情報マップ（審査員特別賞）

内容

成果については  
北海道オープンデータポータルにて公開



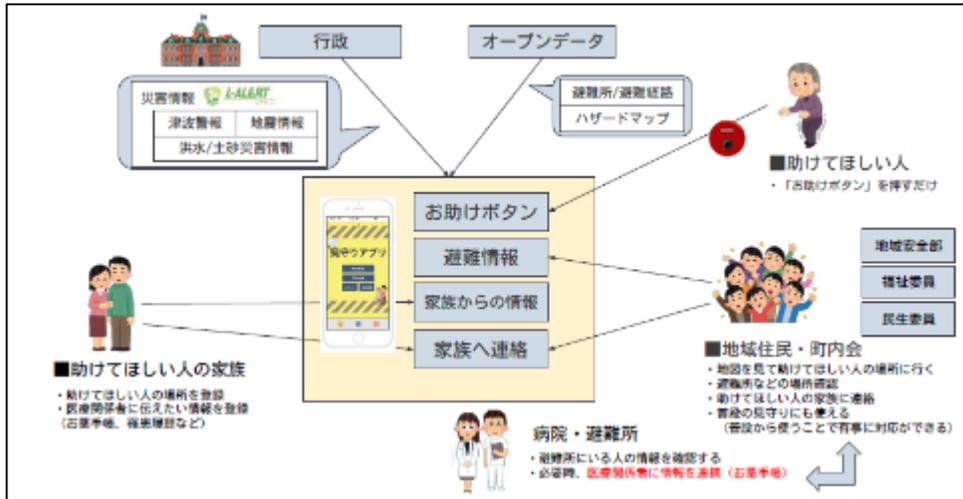
データ利活用ワーキンググループのメンバーも参加していただきました。

審査員に川村さん  
運営のお手伝いに湯村さん  
参加者として井口さん  
主催者として林さん、森さん  
お手伝いいただいた方々、ありがとうございました

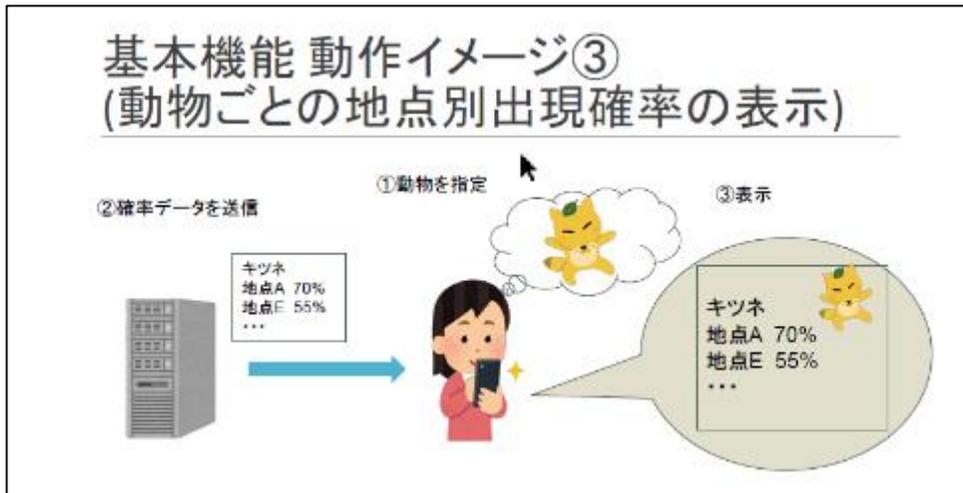
# 令和3年度北海道オープンデータアイデアソン、ハッカソン

## ハッカソン成果発表資料（抜粋）

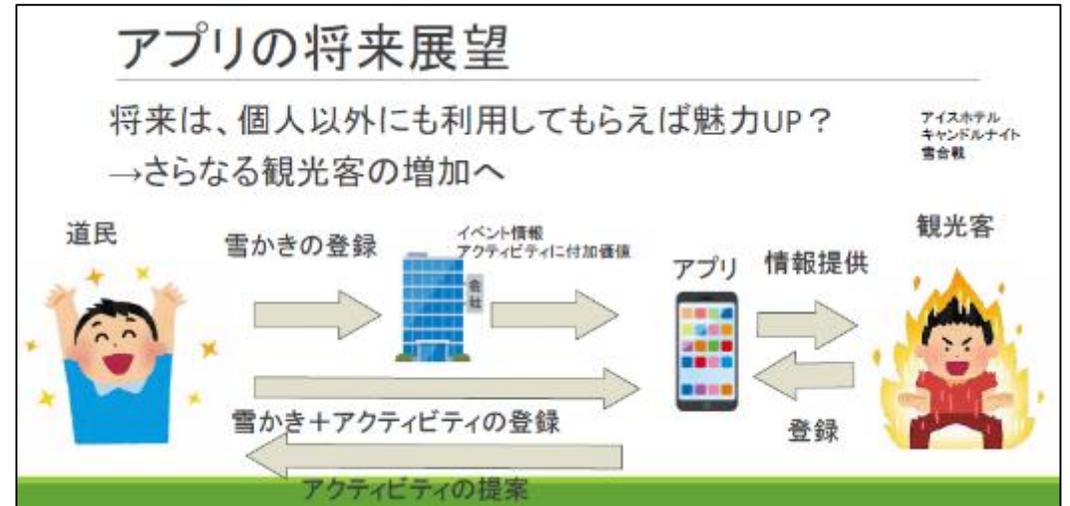
### ○災害時の見守りアプリ



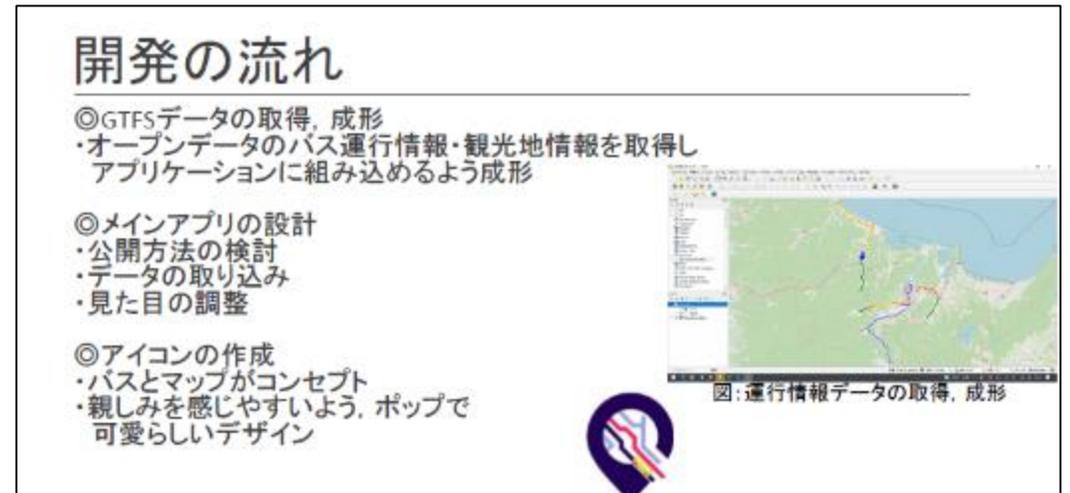
### ○野生動物表示マップ



### ○雪かきマッチングアプリ



### ○バス、観光地情報マップ



# 令和3年度北海道オープンデータ官民ラウンドテーブル

日時

令和3年12月21日（火）14:00～

場所

オンライン開催

ファシリ  
テーター

総務省地域情報化アドバイザー  
山形巧哉氏

内容

事前に募集したデータへの要望について、要望者と担当課でデータ改善の検討を行った

- 1 相談支援窓口一覧等のデータ
- 2 災害時に利用可能な避難所一覧  
ハザードマップ
- 3 エネルギーの消費量データ  
建物データへのID付与



写真：当日の様子